

事業報告書

(自 2022年 7月 1日 至 2023年 6月 30日)

定款第3条に基づき、補体研究・調査、講演会・ワークショップなどの開催、機関誌・図書の発行などを行った。

I. 学術集会、講演会等の開催

1. 第58回日本補体学会学術集会を酪農学園大学・大谷克城氏を集会長として、2022年8月19日-20日に北海道江別市の酪農学園大学中央館学生ホールで開催。
2. 第59回日本補体学会学術集会を九州大学病院別府病院・堀内孝彦氏を集会長として、2023年8月25日-26日に別府でおこなうことを決定。
3. 2024年の第60回日本補体学会学術集会を大阪大学・西村純一氏を集会長とすることを決定。
4. 第59回日本補体学会学術集会から学生・研修医の参加費を無料とすること、継続してWeb参加できる様にすることを決定。

II. 学会機関誌その他の刊行物の発行

1. 学会誌「補体」第59巻 第1号を2022年第58回日本補体学会学術集会開催時に発行（2022年8月1日）。
2. 学会誌「補体」第59巻 第2号を2022年12月20日に発行。
3. 教科書「補体学入門 第2版」の発刊を推進。
4. 日本臨牀2022年11月号特集「補体と疾患—いま補体がおもしろい—」を企画・発刊。
5. 大江戸捕物活劇—我ら補体三人衆の巻—の映像版をサノフィー株式会社と作成。
6. 大江戸捕物活劇—冷えの妖怪 寒冷凝集素の巻—をサノフィー株式会社と作成。

III. 研究の奨励及び研究業績の表彰

1. 第58回日本補体学会学術集会において、第58回日本補体学会優秀賞を千葉大学医学部附属病院腎臓内科 本田大介氏に授与。
2. 第58回日本補体学会学術集会において、第57回日本補体学会奨励賞を和歌山県立医科大学形成外科 西岡俊彦氏、九州大学病院別府病院 日浦惇貴氏の2名に授与。
3. 次回から奨励賞の名称を若手奨励賞に変更。

IV. 関連学術団体との連絡及び協力

1. 補体関連疾患の診断指針の作成と検査法の推進に向けて、関連学会と協力。

協力中の学会

- (1) 日本腎臓学会 (aHUSの遺伝子検査・aHUSガイド作成)
- (2) 日本小児腎臓病学会 (aHUSとの遺伝子検査・aHUSガイド作成)
- (3) 日本免疫不全・自己炎症学会 (補体欠損症および遺伝性血管性浮腫の遺伝子検査)

「原発性免疫不全症候群の全国診療体制確立、移行医療体制構築、診療ガイドライン確立に関する研究」に参加

V. 補体関連疾患の診断指針の作成と検査法向上の推進

1. 研究課題「新しい補体検査システムの構築による補体関連疾患の包括的登録と治療指針確立への展開」を引き続き推進。
2. 持続可能な補体タンパク質検査や補体関連遺伝子検査の推進。
3. 愛育病院との共同研究プロジェクト「妊産婦の妊娠期から産後における補体タンパク質の測定とその推移の考察」について、和歌山県立医科大学（研究代表者 井上徳光）とアレクシオンファーマ合同会社と日本補体学会による4者の共同研究を目指し、和歌山県立医科大学とアレクシオンファーマ合同会社の受託研究契約を締結し（2021年7月12日契約締結）、さらに、和歌山県立医科大学と日本補体学会が受委託契約を締結し（2021年7月26日契約締結）、順調に研究を遂行中。2022年12月に報告書を提出し、契約終了。論文作成中。
4. 2022年4月より、ノバルティスファーマ株式会社による研究支援により名古屋大学腎不全システム治療学寄附講座主導、日本腎臓学会と共同研究で推進している日本膜性増殖性糸球体腎炎/C3腎症コホート研究において、膜性増殖性糸球体腎炎/C3腎症の遺伝子検査（かずさDNA研究所と契約）、タンパク質検査研究を開始。
5. 原発性免疫不全症候群の遺伝子検査として、かずさDNA研究所にて検査体制が整備され、日本免疫不全・自己炎症学会と共同で、2019年8月より補体欠損症(pane1)と補体欠損症(pane2/遺伝性血管性浮腫を含む)の2項目の遺伝子検査を整備し、検査報告書の作成を日本補体学会が実施。井上徳光氏（オブザーバーとして堀内孝彦氏）を中心に3人の検査報告書作成チームで進行。これまでに257例の報告書を作成（2022年7月から2023年6月までで99例の報告書を作成）。
6. 厚生労働科学研究費補助金「血液凝固異常症などに関する研究班」のaHUSサブグループ（丸山彰一氏 名古屋大学腎臓内科）と協力し、2020年4月よりaHUSの遺伝子検査をかずさDNA研究所にて整備し、検査報告書作成チームを結成し、報告書作成を日本補体学会が実施。これまでに181例の報告書を作成（2022年7月から2023年6月までで78例の報告書を作成）。
7. 「血液凝固異常症などに関する研究班」のaHUSサブグループのaHUS診療ガイド改訂委員会に日本補体学会として参加し、作成（2023年6月20日発行）

VI. 国際的な研究協力の推進

1. 国際補体学会の外部精度評価(External Quality Assessment)が妥当性評価を行なっている標準化研究に参加し、2022年11月11日付および2023年3月31日付に妥当性評価書(Certificate)を受領。

VII. 会議

1. 理事会を2022年7月から2023年6月まで通常理事会2回、臨時理事会2回開催。
2. 社員総会を2022年8月20日に開催。

VIII. その他の事業

特になし